

【資料紹介】

二松學舎大学 S R F 所蔵加藤復斎旧蔵資料目録 (稿)

清水 信子

はじめに

加藤復斎(名は信太郎、字近義、復斎は号、また室号为春堂)は、陸前遠田郡涌谷(宮城県北部)の出身で、明治二四年(一八九二)頃に二松學舎に入塾し、同二八年(一八九五)一月に二松學舎房長兼助教として作文課を担当、同三五年(一九〇二)には塾頭を務め、のち備前の閑谷中学校、徳島の富岡中学校で教鞭を執った人物である。

旧蔵資料は約三六〇点。分野別では、漢籍類(漢籍、漢籍和刻本、漢籍邦人注釈書)一二五点、(経部五七点、史部一五点、子部一八点、集部三五点)、加藤復斎の各種講義筆記、文稿など草稿類約九〇点、その他邦人著作類一四五点(漢詩文・漢学関係資料六八点、史書二四点、その他五三点)となっている。その他復斎の二松學舎在塾時の日記も残る。講義筆記については、草稿類以外に受講時にテキストとしたであろう既存の

文献の欄外行間に書き入れているものも散見し、本旧蔵資料の特色の一つである。

明治期の二松學舎の講義課目については、まず初等課程において「素読」「講読」という課目のもと、漢文読解の習熟に努め、高等課程において、それぞれ「経書」「歴史」「子書」課目として具体的に内容を学んでいた。教材とされた文献には四書五経はじめ、史書類では『十八史略』『日本外史』『日本政記』『元明史略』『皇朝史略』『史記』『大日本史』など、子書類では『荀子』『近思録』『伝習録』『韓非子』『孫子』『老子』『莊子』など、詩文集類では『文章軌範』『唐宋八家文』などがあり、復斎旧蔵資料にも各種版本や講義筆記が残されている。

復斎の講義筆記には、それら三島中洲の講述をはじめとした二松學舎における受講の筆記の他、斯文齋で受講した筆記もある。旧蔵資料には『周易』『詩経』『春秋左氏伝』『礼記』『論語』『老子』『近思録』(以上『斯文齋講義筆記』所収)、『中庸

講義筆記』、『文章軌範（講義）』などがあり、当時、二松學舎の塾生が斯文齋の講義も併行して受講していたことがわかる。そして復斎はそれらの筆記と二松學舎での講義筆記とを合わせ、改めて独自の講義筆記として整理している。

明治二四年から二八年頃にかかる復斎の日々の受講の様子は自身の日記にも記録され、それと講義筆記とを照合することにより、明治二〇年代から三〇年代の二松學舎における講義、及び塾生の受講の実態が明らかになるものとして、本資料群は有用なものとなっている。

また講義筆記から知られる中洲の各漢籍注解は、『詩集伝私録』『論語私録』などの中洲の漢籍注釈書「私録」シリーズと重複するものも散見し、それら中洲の講述から注釈書へ成立過程を考察するうえでも重要な資料群であろう。

附記 本目録の作成にあたり、町泉寿郎本学文学部教授をはじめ、本学大学院博士後期課程三年の加畑聡子氏と武田祐樹氏、本学文学部四年鈴置拓也氏と千葉有斐氏、同三年渡部貫太郎氏には、資料整理、撮影など協力を賜りました。末文ながらここに記して心より感謝の意を表します。

凡例

一、本目録は、加藤復斎旧蔵資料のうち、漢籍類一二五点（経部五七点、史部一五五点、子部一八八点、集部三五五点）、加藤復斎草稿類七五五点、その他邦人著作類一四五五点（漢詩文・漢学六八八点、史書二四四点、その他五三三三点）、全三四五五五点についての目録である。

一、分類は、一、漢籍類（漢籍、漢籍和刻本、漢籍邦人注釈書）、二、加藤復斎草稿類、三、その他邦人著作の三項に大別し、その別により分類、排列した。各項の分類基準、下位項目は以下の通り。

一、漢籍類：原則として、『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』における四部分類の分類基準に準拠し、適宜変更を加えた。邦人注釈書については、その原本に続けた。

二、加藤復斎草稿類：漢籍講義筆記を中心として、一、漢籍類の四部分類に準拠した。

三、その他邦人著作類：原則として、国文学研究資料館「日本古典籍分類表」(https://www.nijl.ac.jp/pages/research/activity/classify_koten/index.html)に準拠し、適宜変更を加えた。

一、漢籍類

(一) 經部

五經類〔易 書 詩 春秋

四書類〔大學 中庸 論語 孟子 四書

孝經類

諸經類

小学類

(二) 史部

正史類

古史類

別史類

地理類

(三) 子部

儒家類

兵家類

法家類

類書類

小説家類

道家類

(四) 集部

楚辭類

別集類

總集類

尺牘類

二、加藤復斎草稿類

(一) 經部

五經類〔書 詩 春秋

四書類〔中庸 論語 孟子

(二) 史部

(三) 子部

儒家類

法家類

兵家類

道家類

(四) 集部

總集類

唐宋八家文

文章軌範

邦人撰述漢文抄

(五) 文稿・他

三、その他邦人著作類

(一) 漢詩文・漢学

(1) 漢詩文 ①總集類 ②別集類

(2) 漢学

- (二) 史書
 - (1) 日本史 ①通史 ②雜史 ③論 ④伝記 ⑤記録
 - (2) 外国史
- (三) 言語
- (四) 文学
 - (1) 韻文
 - (2) 散文 ①物語—説話 ②小説—読本・合巻 ③隨筆
- (五) 藝能
 - (1) 謡本
 - (2) 浄瑠璃本
- (六) 地理
- (七) 政治・故実
- (八) 教育
 - (1) 近世以前 ①教訓 ②往来物
 - (2) 近代 ①教訓 ②教科書
- (九) 理学
 - (1) 曆本
 - (2) 数学
 - (3) 物理
- (一〇) 諸芸
 - (1) 花道
 - (2) 占卜・相法

一、同分類項目の排列は、原則として資料成立年代順、あるいは編著者の生年順とした。

一、表記は、原表記に関わらず常用漢字体に統一した。

一、各資料の書誌事項は、第一行に、書名・巻数、編著者事項、成書事項、冊数、第二行以降にその他特記事項を記した。

一、書名は、原則として内題（巻頭題）より定め、明記されていない場合は、外題、或いは著述内容等により定めた。

一、編著者事項は、本文巻頭の編著者記載事項により、漢籍及び漢籍和刻本については、原本表記に関わらず、朝代、或いは国名を冠した各本姓名、続いて著述者は「撰」、編者は「輯」、その他、校注者等は「校」「訂」「注」等と附し、邦人著作については、原則として原本記載事項を表記通り記載し、異名等の場合は適宜（ ）内に字号等を補った。本文巻頭に明記されていない場合は、序跋等により適宜定めた。

一、出版事項において、江戸期の出版者に冠した地名の表記については、原本表記に関わらず、「江戸」「京都」「大坂」に統一した。

一、括弧、記号については以下の通り。

- ・（ ）：小字
- ・〔 〕：推定事項
- ・（ ）：補足事項
- ・／：改行
- ・—：上項、下項の別

一、漢籍類

(一) 經部

五經類

〔倭板〕五經 (存周易、書經、詩經、春秋) 日本雲川弘毅点

〔文化二年(一八〇五)京都梶川七郎兵衛等〕刊本 五冊

復斎 001

『書經』表紙に「玉露叢党印」、裏見返しに「文化七年六月□

日」「加藤氏」、『詩經』見返しに「文化十年十一月十三日」「加

藤虎之助□」と書入あり。

〔五經〕(存「易經」「春秋」) 日本後藤嘉幸訓点 明治一四年

(一八八一) 東京山中市兵衛刊本 三冊 復斎 002

〔改正音訓〕五經 日本後藤松陰訓点 明治一七年(一八八

四) 大阪青木恒三郎刊本 九冊 復斎 003

易

易学発蒙 井上主殿源教親著 男(井上) 主税源観国校 明治

三五年(一九〇二) 東京辻本久兵衛活字印本 一冊 復斎 004

書

尚書講義筆記 (三島中洲)・島田重礼・細田謙蔵等述 加藤復

斎録 加藤復斎自筆本 二冊 復斎 005

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)

明治二五年(一八九二) 四月一〇日から明治三二年五月一

八日までの『尚書』の講義筆記を、篇ごとにまとめたもの。

尚書古今文九家系表 三島中洲著 加藤復斎写本 一冊 復斎

006

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

『尚書』今文古文九家「今文二十九篇」「偽泰誓一篇」「古

文五十七篇」「張霸百兩篇」「漆書古文一篇」「中文尚書」「偽

古文五十九篇」「姚方興偽古文二十八字」「豊熙偽古文」につ

いて概説したもので、成立は中洲が津藩遊学中の嘉永七年

(一八五四)。その後、明治一五年(一八八二)に刊行された

が、現存を見ない。

詩

詩經二十卷 (存卷七至二十) 即毛詩鄭箋標註五卷 (存卷三至五)

漢毛亨伝 漢鄭玄箋 明治期大阪岡田茂兵衛刊本 加藤復斎

手沢 三冊 復斎 007

表紙に復齋による篇名書入紙箋貼付、また朱筆書入あり。
 印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）、「加藤」（朱文円印）。

詩經八卷（卷一闕）即詩經集註 宋朱熹集註 江戸期刊本 加

藤復齋手沢 七冊 復齋 008

復齋による朱筆、墨筆、藍筆の詳密な書入あり。印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

復齋書入は、中洲の講義に基づくもので、中洲の按語をはじめとして毛伝、孔疏など中国諸家注、また日本諸家からは仁井田好古（南陽）『毛詩補伝』、中井履軒『詩經雕題略』からの引用が散見する。

毛詩蒙引二十卷首一卷 明陳子龍撰 寛文一二年（一六七二）

京都村上平楽寺刊江戸期大坂河内屋茂兵衛等後印本 九冊

復齋 009

印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

詩經小識八卷（存卷一至三）〔稻生若水〕 江戸期写本 一冊

復齋 010

印記「龍珠館／図書記」（朱文長方印）、「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

七經雕題略卷三（詩經雕題略三卷）〔中井履軒〕 明治二八年

（二八九五）加藤復齋写本 四冊 復齋 011

首「七經雕題略卷三之一」／詩拋朱子集註、後補表紙題簽

「詩經雕題略」、第二冊原表紙に「明治乙未八月／十二月卒業為春堂藏書」とあり。印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

詩經（經典餘師）〔溪百年〕 嘉永二年（一八四九）江戸須原

屋茂兵衛大坂柏原屋与左衛門等再刊本 八冊 復齋 012

春秋

春秋左伝三十卷 晋杜預集解 日本那波師曾（魯堂）点 寛政

一二年（一八〇〇）再刊本 一五冊 復齋 013

春秋左氏伝鱗 岡白駒輯 明治期大阪柳原喜兵衛刊本 五冊

復齋 014

印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

春秋左伝雕題略六卷 中井履軒積徳著 山田寛校正 万延元年

（一八六〇）江戸山城屋佐兵衛等印本 六冊 復齋 015

印記「新田」（朱文円印）。

春秋左氏伝講義三十卷（存卷九至十六） 晋杜預集解 唐陸徳

明音義 日本稲垣真講述 大正六年（一九一七）東京興文社

排印本 一冊 復齋 016

印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

春秋左氏伝諸家説 闕名 明治三四年（一九〇一）加藤復齋写

本 一冊 復齋 017

書末に「明治卅四年十月念四上午写了于下二番街四十番地
「僑居」とあり。印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方
印)。

春秋左伝諸注を輯めたもので、毛奇齡、顧炎武など中国諸
家注が引かれるなか、安井息軒からの引用が少なくない。

四書類

大学

大学摘説 佐藤坦(一斎) 加藤復斎写本 一冊 復斎018

印記「咬得／菜根百／事可」(朱文正方印)、「寧静／致
遠」(白文正方印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方
印)。

古文大学解 中嶋保武士久 加藤復斎写本 一冊 復斎019

文化一二年(一八一五) 中嶋保武士久序。裏見返しに「加
藤信藏本」と書入あり。印記「加藤／信」(白文正方印)、
「字／近義」(朱文正方印)

大学原本釈義 朝川鼎五鼎父著 伊藤馨・村尾融・野沢翹校
加藤復斎写本 一冊 復斎020

印記「加藤／信」(白文正方印)、「字／近義」(朱文正方
印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

大学即日本大学贖議 吉村晋(秋陽) 贖議 安政五年(一八五
八) 跋刊明治期大阪青木恒三郎後印本 二冊 復斎021

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

古本大学略解 池田緝著 明治五年(一八七二) 大阪青木恒三
郎刊本 一冊 復斎022

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

大学 [安井衡(息軒)注] 明治期加藤復斎写本 一冊 復斎
023

書末に書写識語「明治 十月十二夜写了」あり。印記「加
藤／信」(白文正方印)、「字／近義」(朱文正方印)。

古本大学講義 方谷山田球述 門人筆記 山田準校訂 明治期
加藤復斎写本 一冊 復斎024

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

学庸講義(古本大学・中庸) [漢文学講義録]第四〇号所収
〔三島中洲〕講義 明治期活字印本 一冊 復斎025

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

『漢文学講義録』は、中洲ほか諸氏の講義録を輯めたもの
で、明治期から大正期にかけて刊行された。本書にはこのほ
か萩原西疇「論語講義」が収められている。

中庸

中庸講義筆記（斯文學講義筆記） 島田篁村述 加藤復齋筆記

加藤復齋自筆本 一冊 復齋 026

□□印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）

明治二四年（一八九二）から二七年（一八九四）の斯文學での講義をまとめたもの。

論語

論語二卷（四書白文）之一 宋朱熹集註 江戸期刊本 五冊

復齋 027

印記「備前州／閑谷文／庫図籍」（朱文正方印）、□□□□

／□□□□／図書章」（朱文正方印）。

論語即論語集註（存卷八至十） 宋朱熹集註 江戸期刊本 一

冊 復齋 028

〔四書章句集註〕本か。

近聖居三刻參補四書燃犀解二十卷（存論語卷四至十） 明陳組

綬撰 明周鍾等補 明刊本 三冊 復齋 029

印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

康熙欽定四書解義十三卷（卷三至六即論語四卷） 清康熙帝欽

定 日本重野安繹・中村正直同校 大郷穆標註 明治一五年

（一八八二）大阪修道館活字印本 六冊 復齋 030

眉欄書入あり。印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

七經雕題略卷七（論語雕題）〔中井履軒〕写本 一冊 復齋

031

首「七經雕題略七之一／論語拋朱子集註」、原表紙打付書

「論語雕題 里仁迨」、又「余贈古注大学写本于／大島氏々報

以此卷／大島藏書（朱文正方印）「大島／藏書」とあり。印

記「大島／藏書」（朱文正方印）、「慈／洲」（白文正方印）、

「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

論語十卷即論語補解 魏何晏集解 日本山本惟孝補解 天保一

〇年（一八三九）紀州若山總田平右衛門等刊本（学習館藏

版） 加藤復齋手沢 四冊 復齋 032

眉欄に復齋による講義筆記などの朱墨書入あり、久保檜谷

の『論語』講義時の講述も見られる。書末に「明治廿四年五

月廿七日／神田区裏神保町ニテ 共四冊／代十六錢／加藤黄

山」とあり。

論語欄外書（佐藤）一齋居士稿本 加藤復齋写本 二冊 復齋

033

印記「藤／名／信一／復齋」（上白文下朱文長方双印）。

論語集說六卷 安井衡著 明治五年（一八七二）京都勝村治石

衛門大阪柳原喜兵衛東京北島茂兵衛等刊本（三都版） 信夫

恕軒、加藤復齋手沢 六冊 復齋 034

朱筆にて信夫恕軒明治一五年批語あり、末に「明治十五年七月恕軒一閱併批」とあり。また墨筆にて復齋書入あり、中井履軒等を引く。印記「奇文欣／賞書／樓之印」(朱文正方印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)、「奇文欣／賞書／樓之印」は信夫恕軒藏書印。信夫恕軒旧蔵書。

支那文学講義 (論語) 島田篁村口述 明治期排印本 一冊 復齋 035

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

非微八卷 中井積善 子慶甫著 早辨之士誉較 天明四年(一七八四) 江戸須原屋茂兵衛京都林伊兵衛大坂松村九兵衛山口又一郎刊本(懷徳堂蔵版) 四冊 復齋 036

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

孟子

孟子四卷 (四書章句集註) 之一 宋朱熹集註 嘉永六年(一八五三) 大坂炭屋五郎兵衛等刊本 四冊 復齋 037

裏見返しに墨筆にて「加藤氏」、朱筆にて「陸前国元涌谷／加藤氏」と書入あり。

七経雕題略卷八 (孟子雕題) (中井履軒) 写本 一冊 復齋 038

首「七経雕題略八之一／孟子捫朱子集註」。印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

孟子欄外書 (佐藤)一齋居士稿本 加藤復齋写本 二冊 復齋 039

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

魏批孟子牽牛章 清魏禧批 日本森田益(節齋)閱 三島中洲

等評 明治一二年(一八七九)(跋) 写本 一冊 復齋 040

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

森田節齋批『魏批孟子牽牛章』は弘化五年(一八四八)に刊行されるが、本書はその後さらに土屋鳳洲、高見岱、藤沢南岳等の批を加えたもの。明治一二年(一八七九)の土屋鳳洲序、片山猶存跋あり。眉欄の書入は朱墨あり、朱筆は中洲の講義を録したもので、墨筆は批。

評釈孟子荀卿列伝 阪谷素 明治一三年(一八八〇) 跋 写本 一冊 復齋 041

末に五十川困「書評釈孟子荀卿列伝後」、明治一三年阪谷朗廬跋(末「明治十三年第一月朗廬阪谷素識」、同年土屋鳳洲批(末「十三年一月十七日 土屋弘楷批」)あり。印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

孟子論文七卷 竹添光鴻漸卿氏手録 明治一五年(一八八二) 東京奎文堂野口愛刊本 七冊 復齋 042

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

孟子養氣章或問図解 山田方谷 明治期写本 一冊 復齋 043

明治二二年(一八八九)三島中洲跋あり。印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

支那文学講義(孟子) 島田篁村口述 明治期排印本 一冊
復齋 044

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

四書

〔四書章句集註〕(存論語十卷(卷一、二闕)孟子七卷) 宋朱

熹撰 (日本林道春) 点 寛政四年(一七九二)大坂河内屋

喜兵衛刊本 復齋 045

〔四書章句集註〕(存論語十卷孟子十四卷) 宋朱熹撰 日本後

藤世鈞点 日本後藤師周校 天保二一年(一八四〇)大坂山

内五郎兵衛等刊本(四刻本) 六冊 復齋 046

〔小松板〕四書章句集註(存大学一卷論語十卷(卷九十闕)

孟子七卷) 宋朱熹撰 (日本林道春) 点 天保八年(一八三

七)大坂河内屋喜兵衛等刊江戸後期大坂河内屋喜兵衛等後印

本 加藤復齋手沢 一冊 復齋 047

京都の小松太郎兵衛が寛文二一年(一六七二)に刊行した

『四書集註』、いわゆる「小松版四書」をもとにした天保八年

(一八三七)江戸須原屋茂兵衛京都吉野屋仁兵衛大坂河内屋

喜兵衛刊本の後印本。三島中洲が研究、講義にあたり定本と

した四書。本版は、小本(約一七×一二cm)として刊行され

た小松板を半紙本(約二四×一七cm)で刊行したことにより

匡廓外が広くとられ、そのため書人の便が良く、中洲門人に

広く活用された。復齋の書入は、概ね中洲の講義を筆記した

もので、中井履軒、塩谷宕陰の説のほか「一大段：」「一小

段：」とあり、大段、小段に分けて解説していく中洲の講義

方法が窺える。「大学」末に「二十四年十月廿五日」とある。

〔四書章句集註〕(存大学章句一卷中庸章句一卷論語集註十卷)

宋朱熹撰 日本杏立点(広徳館校正) 慶応二年(一八六六)

序広徳館刊本 四冊 復齋 048

〔新刻改正〕四書(存大学章句一卷中庸章句一卷論語集註十

卷孟子集註十四卷) 宋朱熹撰 日本後藤世鈞点 大槻修如

電校 明治三二年(一八九九)東京四書堂(松邑孫吉、松崎

半造、東生亀次郎、東生鉄五郎)刊本(佐土原学習館原版)

四冊復齋 049

印記「金華文庫／図書之章」(朱文正方印)、寄贈受入印

(大正四年一月一〇日安藤雄之助氏寄贈)。

〔四書略解〕(存大学略解・中庸略解・論語略解) 重田正為

(蘭溪)著 嘉永六年(一八五三)江戸文苑閣刊本 六冊

復齋 050

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

四書纂要五卷 (大学二卷中庸三卷) 首一卷 (卷四中庸卷三闕)

金 (金子) 済民伯成学 安政五年 (一八五八) 刊本 (芳洲軒

蔵版) 四冊 復齋051

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)、「加藤／

信」(白文正方印)。

○

帆足先生四書標注 (大学)・中庸欄外書上帙・管子 帆足万里

四書標注・佐藤一齋中庸欄外書 明治二六年 (一八九三) 加

藤復齋抄録写本 一冊 復齋052

各抄録。「帆足先生四書標注」末「癸巳十二月中三日写」

(癸巳 明治二六年)。印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱

文正方印)。

藍田先生講義 (論語、孟子、孝經) 東 (伊東) 龜年 (藍田)

著 男 (伊東) 惟肖輯 浅井幹校 寛政六年 (一七九四) 序

刊本写 一冊 復齋053

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

孝經類

孝經發揮一卷 (津阪孝緯) 文政九年 (一八二六) 刊本 (有造

館蔵版) 加藤復齋手沢 一冊 復齋054

復齋書入詳密にあり。印記「修道／館蔵」(朱文正方印)。

「黒川／蔵書」(朱文正方印)、「加藤信／太郎図／書之印」

(朱文正方印)。

標註増補古文孝經 襲亭蒲生先生校正 校鶴飼静磨増注 明治

一六年 (一八八三) 東京金港堂原亮三郎刊本 一冊 復齋055

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

諸経類

斯文饗講義筆記 (周易講義)「詩経講義」「春秋左氏伝講義」

「礼記講義」「論語講義」「老子講義」「近思録講義」 重野成

斎周易述 南摩綱紀詩経述 萩原西疇春秋左氏伝述 岡松甕

谷・川田甕江礼記述 根本通明論語述 田中從吾軒老子述

土屋鳳洲近思録述 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 一冊

復齋056

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

復齋が斯文饗での明治二六年 (一八九三) から明治三〇年

(一八九七) までの講義筆記をまとめたもの。

小学類

〔韻鏡〕 刊本 一冊 復齋057

外題 (書題簽)「韻鏡四拾三転」。

(二) 史部

正史類

史記評林一百三十卷首一卷 明凌稚隆編 明李光縉增補 天明六年(一七八六)八尾甚四郎友春覆寛文一二年一三年刊本重刊 二五冊 復齋101

印記「浪花／城□」(白文正方印)、「法潤／之印」(朱文正方印)、「野田」(朱文円印)。

史記評林一百三十卷首一卷(卷二十九至三十一闕) 明凌稚隆編 明李光縉增補 江戸期大坂河内屋喜兵衛等後印本 二三冊 復齋102

表紙に朱筆書入あり。印記「筒井氏／藏書印」(朱文正方印)、「酒田氏／政□函／書之印」(朱文正方印)。

史記鈔 秋山四郎編 明治二九年(一八九六)東京金港堂書籍株式会社活字印本 二冊 復齋103

裏表紙に墨筆にて「伊勢国□□郡□□町／伊達喜一郎」、第一冊末に朱筆にて「明治三十四年四月／磐城中学校／鈴木藏書」とあり、復齋朱筆にて表紙に篇名、本文内朱筆にて段階を示す書入あり。

史記論贊 (三島中州)編 明治期加藤復齋写本 一冊 復齋104

印記「加藤信／太郎函／書之印」(朱文正方印)。

『史記』の司馬遷論贊部分を集めたもの。三島中洲は各書の論贊部分に着目して講じ、それらを抜出した各「論贊」シリーズが伝わる。朱筆にて段階を示す書入あり。

増訂史記列伝講義七十卷(存卷一至四十二) 興文社編纂 大正六年(一九一七)東京興文社活字印本 二冊 復齋105

古史類

国語二十一卷 吳韋昭解 宋宋庠補音 明穆文熙編 明石星等校 日本林信勝点 宝暦一年(一七六一)修京都越後屋多助後印本 加藤復齋手沢 五冊 復齋106

眉欄、行間に復齋による朱墨書入詳密にあり。書末刊記部に「加藤氏藏本(朱文円印「加藤」)」、書末遊紙に「明治廿四年皐月望／神田区飯田町古本店ニテ」と書入れあり。印記「加藤信／太郎函／書之印」(朱文正方印)。

別史類

標註十八史略副詮 明曾先之原本 日本大郷穆纂 明治一三年(一八八〇)東京原亮三郎刊本 七冊 復齋107

印記「信州佐久郡／小山捨吉／小諸与良町」(朱文正方印)、

「杉野」(朱文円印)。

点註十八史略校本 元曾先之編次 陳殷音釈 王逢点校 日本

石川鴻斎補訂 明治一六年(一八八三) 東京山中市兵衛刊本

七冊 復斎108

校訂標註十八史略讀本 元曾先之編次 日本岡千仞 今井匡

之校訂 明治十六年(一八八三) 刊東京山中孝之助刊本 七

冊 復斎109

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

校訂標註十八史略讀本 元曾先之編次 日本中州三島毅校閱

鹿門岡千仞 鳳岡今井匡之校訂 明治二四年(一八九二)

上総能勢嘉佐衛門刊本 七冊 復斎110

印記「東海林／藏書印」(白文長方印)、「東海林」(朱文円

印)、「東海林／善□郎」(朱文龍圀円印)。

龍頭図解十八史略字類大全七卷附図(卷四至七闕) 内山経知

編輯 明治一八年(一八八五) 大阪岡田茂兵衛刊本 二冊

復斎111

印記「安／藤」(朱文正方印)、「加藤信／太郎図／書之

印」(朱文正方印)。

龍頭挿画十八史略字類四卷 林省三編輯 明治二八年(一八九

五) 東京大草常章刊本 四冊 復斎112

増補元明史略 後藤世鈞編 藤原正臣増補 明治八年(一八七

五) 京都藤井孫兵衛刊本 四冊 復斎113¹

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)

増注標記二十二史略八卷 清曠敏本撰 日本阿部修助増注標記

阿部弘国校訂 明治一四年(一八八二) 東京青山清吉刊本

八冊 復斎114

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

地理類

丁亥入都紀程二卷 清黎庶昌撰 清光緒一四年(一八八八)年

排印本 一冊 復斎115

表紙書入「黎星使丁亥入都紀程(朱文円印□□)／一冊

全己丑元月一日孫異持贈／古梅先生属為題端」(白文正方印

「君異／詞翰」)、「印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正

方印)。

(三) 子部

儒家類

孔子家語十卷 魏王肅撰 日本岡白駒補注 寛保元年(一七四

一) 京都風月堂莊左衛門重刊本 五冊 復斎201

遊紙書入「龍州先生考／孔子家語」。印記「氏／江」(朱文

正方印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

荀子二十卷即荀子箋釈 唐楊倞注 清謝墉箋釈 日本朝川鼎校

文政一三年(一八一六)江戸和泉屋金右衛門刊本 加藤復齋

手沢 八冊 復齋202

中洲の講義筆記に基づく復齋朱墨書入あり。そのほか岡松

甕谷の説も多引する。印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱

文正方印)。

復齋の日記に見える中洲の『荀子』講義は明治二八年(一

八九五)四月に開講し、始業は朝七時。

校訂忠経集註 漢馬融撰 漢鄭玄注 日本五十川左武郎校訂増

註 明治一五年(一八八二)大阪中川勘助刊本 一冊 復齋

203

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

近思錄十四卷 宋朱熹・呂祖謙同輯 日本山崎嘉点 安永三年

(二七七四)京都寿文堂井上清兵衛挾寛文一〇年序京都寿文

堂刊本重刊 二冊 復齋204

見返し書入「久保忠太」「久保順治」。印記「練牛村久保／

氏書室之印」(朱文長方印)。

伝習録三卷(卷上闕) 明王守仁撰 日本三輪希賢評註 [正徳

二年(一七二二)序大坂積玉圃] 刊本 二冊 復齋205

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

伝習録欄外書三卷 (佐藤)一斎居士 明治期加藤復齋写本

三冊 復齋206

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

小学句読六卷(存卷三至五) [明陳選撰 日本後藤芝山点]

日本福井淳校 明治期刊本 二冊 復齋207

小学合璧六卷 明陳選注 明陳際泰纂輯 明陳仁錫參訂 日本

山中幸武標注 明治三年(一八七〇)大阪柳原喜兵衛塩冶芳

兵衛拋万延年刊本 四冊 復齋208

印記「月坂氏／藏書印」(朱文正方印)、「月坂恒／三之

章」、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)、「加藤」(朱

文円印)。

龍頭朱子小学注釈四卷 田中幾之助注釈龍頭(挾明陳選句読

清高愈纂註 日本中井履軒雕題 佐藤一斎欄外書] 明治一

七年(一八八四)大阪大辻増五郎刊本 四冊 復齋209

第二冊裏見返しに「明治二拾一年／梅雨求之／村木謙吉」

書末に「明治二拾一年梅雨求之／村木謙吉」と書入あり。印

記「村木」(朱文円印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正

方印)、「加藤」(朱文円印)。

兵家類

吳子副註一卷 (佐藤一斎)著 明治期東京嶋屋平七等後印本

一冊 復齋210

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

素書国字解一卷 漢黄石公伝 日本物茂卿(荻生徂徠)解 宇

恵(宇佐見瀧水)校訂 写拠明和六年(一七六九)刊本 一

冊 復齋 211

印記「陸前国遠田郡／涌谷村／加藤正人」(墨文長方印)。

法家類

韓子解詁二十一卷首一卷末一卷即韓非子解詁全書(卷首、卷一、

二闕) 津田鳳卿邦儀述 山内鈍君齡等録 明治期大阪小林

伊兵衛後印本 加藤復齋手沢 九冊 復齋 212

復齋朱墨書入れあり、また日付書入「二十六年十一月廿一

日」(卷八卷頭)、「甲午一月十七日」(卷九卷頭)、裏見返し

書入「涌谷 加藤氏蔵」。印記「宇泉／臧書」(朱文正方印)、

「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

書入は、明治二六年から二七年(一八九三〜九四)頃の中

洲の講義を録したもので、「第一大段…」と段解の方法をと

っていることが見える。

類書類

純正蒙求三卷(卷中闕) 元胡炳文撰 文化元年(一八〇四)

江戸昌平坂学問所刊明治一四年(一八八一)大阪山口恒七後

印本 二冊 復齋 213

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

小説家類

金鰲新話二卷(卷上闕) 朝鮮金始習撰 明治一七年(一八八

四)東京梅月堂大塚彦太郎刊本 一冊 復齋 214

書末に「戊戌九月念七日九層坂下露店購之」(戊戌〓明治

三一年)と書入あり。印記「藤／名／信一号／復／齋」(上

白文下朱文長方双印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正

方印)。

道家類

老子経国字解三卷(存卷上) 金蘭齋述 文化六年(一八〇九)

大坂文海堂(敦賀屋久兵衛)刊本 一冊 復齋 215

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

纂訂評註老子道德経二卷(存卷上) 宋蘇轍解 日本木山鴻吉

編 明治期刊本 加藤復齋手沢 一冊 復齋 216

眉欄行間に復齋による朱墨書入多数あり。

莊子南華真経十卷 晋郭象注 服部元喬(南郭)校 [江戸期]

刊本 合一（原装一〇）冊 復齋217

朱墨書入多数あり。印記「壇氏／武元」（朱文正方印）、

「陸」（朱文円印）。

莊子因六卷即補義莊子因 清林雲銘撰 日本秦鼎補義 寛政九年（一七九七）刊明治期大阪松邨久兵衛等後印本 加藤復齋

手沢 六冊 復齋218

復齋により眉欄、行間に講義筆記朱墨書入多数あり、段解

を示す書入あり。印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正

方印）。

方印）。

（四）集部

楚辞類

楚辞燈四卷増楚懷襄二王在位事蹟考一卷 清林雲銘撰 林沅較

正 楊攀梅重訂〔寛政一〇年（一七九八）大坂池内八兵衛

等刊〕明治期大阪文栄堂前川善兵衛後印本 四冊 復齋301

印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

別集類

宋李盱江先生文抄三卷 宋李靚撰 慶応二年（一八六六）江戸

鈴木喜右衛門等刊本 三冊 復齋302

印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

蘇長公小品四卷（卷四闕） 宋蘇軾撰 明王納諫評選 日本布

川通璞校〔弘化三年（一八四六）跋〕大坂嵩山堂刊本 三

冊 復齋303

岳忠武王集 宋岳飛撰 明単恂輯 文久三年（一八六三）江戸

玉巖堂和泉屋金右衛門刊本 一冊 復齋304

印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

指南録〔宋文天祥撰〕写本 一冊 復齋305

印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

宋学士文粹三卷（卷三闕） 明宋濂撰 日本村瀬誨輔編 松下

綱校 文久二年（一八六二）大坂羣玉堂河内屋茂兵衛江戸玉

巖堂和泉屋金右衛門刊本 二冊 復齋306

印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）、「菅／

沼」（朱文正方印）。

劉誠意文鈔三卷 明劉基撰 日本奥野純編 明治二五年（一八

九二）大阪鈴木常松刊本 二冊 復齋307

印記「川合氏／文庫章」（朱文正方印）、「加藤／信」（白文

正方印）、「字／近義」（朱文正方印）。

王遵巖文粹五卷 明王慎中撰 日本村瀬誨輔編 天保一五年

（一八四四）大坂河内屋茂兵衛等刊本 三冊 復齋308

印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

魏叔子文選要統篇三卷 清魏禧 魏禮同撰 日本桑原枕編 明治三年(一八七〇) 大阪河内屋茂兵衛等刊本 三冊 復齋 309

印記「□田／春風」(朱文正方印)。

青門贖稿八卷(存卷六) 清邵長蘅撰 江戸期江戸昌平坂学問所木活字印本 一冊 復齋 310

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)、「仙／台一任天堂書店」(朱文長方印)。

海峰文集八卷(存卷六) 清劉大槐撰 明治一四年(一八八二)岸田吟香等木活字印本 一冊 復齋 311

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

隨園文鈔三卷(存卷上) 清袁枚撰 日本田中參編 安政四年(一八五七) 從吾軒刊本 一冊 復齋 312

朱筆書入あり。印記「□図書」(朱文長方印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

大雲山房文鈔二卷(卷上闕) 清惲敬撰 日本鈴木魯鈔 明治一一年(一八七八) 東京鈴木虎二刊本 一冊 復齋 313

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

曾文正文鈔二卷首一卷(存卷下) 清曾国藩撰 日本塚達編 明治一二年(一八七九) 東京塚達刊本 一冊 復齋 314

総集類

文選序目 写本 一冊 復齋 315

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

唐詩選卷六(五言絶句、七言絶句) 明李攀龍撰 写本 一冊 復齋 316

見返しに「一関谷源治郎書ス」「加藤氏」と書入あり。

唐詩選七卷 明李攀龍撰 日本神埜世猷校 明治二五年(一八九二) 愛知梶田勘助刊本 三冊 復齋 317

点註唐宋八家文読本三十卷(卷一、十三、十四、十九、二十) 清沈德潜評点 川上広樹評 明治一八年(一八八五) 東京山中市兵衛刊本 加藤復齋手沢 一三冊 復齋 318

復齋朱筆墨筆書入あり、朱筆は明治二六年(一八九三)の中洲の講義筆記をもととして、墨筆には藤森弘庵の説なども引かれる。末に「二十六年十二月十日講了」とある。印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

点註唐宋八家文読本三十卷 清沈德潜評点 川上広樹評 明治一八年(一八八五) 新潟弦卷七十郎刊本 一六冊 復齋 319

冠註挿画唐宋八家文読本字類大全 六郷弘純編輯 島田実応 校正 明治二二年(一八八八) 新潟目黒十郎銅版本 二冊 復齋 320

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)、「加藤」(白文円印)。

唐宋八家文読本 清沈德潜評点 山崎楽訓点 宮本知雄校 明

治一九九年（一八八六）東京敬業書院鉛印本 加藤復斎手沢
四冊 復斎³²¹

復斎朱墨書入あり、朱筆は中洲の講義筆記を中心として、
墨筆にて久保檜谷の説などが引かれる。印記「加藤信／太郎
図／書之印」（朱文正方印）。

龍頭増註正文章軌範七卷統七卷（統卷五至七闕） 宋謝枋得編

明鄒守益編統 明焦竑評校統 明李廷機評訓 内藤耻叟校閱

渡井量蔵纂輯 明治一九九年（一八八六）刊本（東京東崖堂蔵
版）五冊 復斎³²²

印記「東海林／善□郎」（朱文龍圀円印）。

龍頭増註正文章軌範七卷（闕統卷一二） 宋謝枋得編 明鄒守

益編統 明焦竑評校統 明李廷機評訓 内藤耻叟校閱 渡井

量蔵纂輯 明治二七年（一八九四）東京富田清刊本 五冊

復斎³²³

印記「金華文庫／図書之章」（朱文正方印）、寄贈受入印

（大正四年一月一〇日安藤雄之助氏寄贈）。

増纂評註文章軌範正編七卷統編七卷 宋謝枋得輯 明茅坤訓註

明李廷機評訓 明顧充集評 日本松井暉辰校 明鄒守益輯統

編 明焦竑評閱 明李廷機訓註 日本松井暉辰校 寛政八年

（二七九六）大坂洪川与左衛門等刊本 加藤復斎手沢 六冊

復斎³²⁴

復斎により眉欄、行間に朱藍墨緑の多色書入詳密にあり。

印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

復斎書入は、中洲はじめ森田節斎、四屋穂峰の講説を色別
にしたもので、その他にも川田甕江なども多く引かれる。見
返しには久保檜谷による読解のための記号の凡例が記され
る。書入時期は明治二〇年代後半から三四年頃と長きにわた
るため、その筆蹟が異なる。

統文章軌範評林註釈七卷

明鄒守益批選 明焦竑評校 明李廷

機註閱 日本福井掬補輯 明治十九年（一八八六）福岡林斧

人刊本 三冊 復斎³²⁵

補註文章軌範校本

宋謝枋得撰 日本海保元備補注 島田重礼

校補 明治二七年（一八九四）大阪岡島直七等修本 加藤復

斎手沢 三冊 復斎³²⁶

復斎による朱筆書入が詳密にあり、受講時の筆記ほか、自

身の覚書として記したものとと思われる。

評本文章軌範七卷

宋謝枋得原選 日本頼襄講義口授 牧輓増

補筆記 中村鼎吾校訂編纂 明治一一年（一八七八）東京

龜谷竹二刊本 加藤復斎手沢 二冊 復斎³²⁷

復斎朱筆書入詳密にあり、また書末に「明治卅四年十月二

十八日開読卅日夜読了」とあり。印記「芳谿林／堂図書／之
印」（朱文正方印）。

書入は、段解が示されており、中洲の講義に基づくもので
あろう。

増評文章軌範七卷続七卷 宋謝枋得輯 明李廷機評 明鄒守益

輯続 明焦竑評続 明李廷機註続 日本大竹政正纂評 明治

一三年(一八八〇) 東京牧野吉兵衛刊本 六冊 復齋 328

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

典故詳解文章軌範釈語明辨二卷典故詳解続文章軌範釈語明辨二

卷 渡井量蔵纂輯 明治二〇年(一八八七) 二十一年(一八八

八) 東京富田彦次郎刊本 四冊 復齋 329

第四冊裏見返し書入「古山慶三郎」、印記「金華文庫／図

書之章」(朱文正方印)、寄贈受人印(大正四年一月一日

安藤雄之助氏寄贈)。

初学文章軌範二卷 中洲三島毅編纂批評 明治二〇年(一八八

七) 東京小林義則刊本 三冊 復齋 330

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

謝選拾遺講義二卷 山陽頼襄子成編選 蹇堂江阪彊恕卿講義

明治二十七年(一八九四) 大阪中川勘助活字印本 加藤復齋手

沢 二冊 復齋 331

復齋による朱筆書入あり、書末に「戊戌五月初三／為春堂

主人」(戊戌〓明治三二年)とあり。印記「加藤信／太郎図

／書之印」(朱文正方印)。

国朝古文所見集十三卷(存卷六、七) 清陳兆麒輯 清陳允

中・陳允安同校〔天保一五年(一八四四)序〕刊本 一冊

復齋 332

藍筆書入あり。印記「小橋氏／臧書記」(朱文長方印)、

「精堂／主人」(朱文正方印)、「片山／勤印」(白文正方印)、

「加藤信／太郎図／書之印」。

○

文海指針 甕江川田先生評点 小葉昌造・日下寛編次 明治九

年(一八七六) 東京和泉屋平兵衛等刊本 加藤復齋手沢 一

冊 復齋 333

復齋により見返しに「陸前涌谷／加藤氏」。眉欄に朱墨書

入あり。

甕江が家塾での講義のため清名家詩文集から抄出し、批評

を加えたもの。復齋書入はその巻頭に「此以朱書者係中洲先

生批評者也」とあり、中洲批評を中心とする。

尺牘類

東坡尺牘四卷(存卷二) 宋蘇軾撰 清黃始輯 岡本行敏校

〔明治一五年(一八八二) 東京北畠茂兵衛〕刊本 一冊 復

齋 334

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

〔序跋抄〕 加藤復齋写本 一冊 復齋 335

「文々山詩選序」「送清国欽差大臣何子峨序」「題近世名家文粹」「書大浦毅次郎遺書後」所収。印記「藤／名／信一／復／齋」（上白文下朱文長方双印）。

二、加藤復齋草稿類

(一) 経部

五経類

書

〔書経〕 藤沢南岳説 加藤復齋写本 仮綴一冊 復齋 501

巻頭眉欄に「藤沢南岳説」とあり。虞書堯典、舜典、大禹謨、皋陶謨所収。

詩

詩集伝私記・〔詩集伝私記補〕 〔三島中洲著 加藤復齋輯録〕

加藤復齋自筆本 仮綴二冊 復齋 502.12

外題（表紙打付書）「詩集伝私記」又「大雅蕩之什抑之篇至大尾」「為春堂藏」、〔詩集伝私記補〕外題「詩集伝補経」（集伝補）見せ消ち）又「自都人士至大雅文王有声」。巻頭「詩集伝私記 中洲先生」、前半部は鉛筆による筆記。

中洲「私録」シリーズのひとつ。中洲は嘉永五年（一八五二、中洲二三歳）から安政三年（一八五六、二七歳）にかけての伊勢津藩遊学中から「私録」と題した漢籍注釈書を手がけている。『詩経』のほか『周易』『尚書』『大学』『中庸』『論語』『孟子』『老子』の各私録があり、明治三八年（一九〇五）に全三八冊が完成した。なお、書名「私録」は、当初「私記」に作る。本『詩集伝私記』は朱熹集伝をもととし、鄭箋、孔疏はじめとした諸注を折衷するなか、仁井田好古、中井履軒の説が頻出する。

詩集伝私記 三島毅遠叔著 加藤信義卿（復齋）輯録 加藤復齋自筆本 仮綴六冊 復齋 503

『詩集伝私記（私録）』には複数の伝本があり、いずれも編著者事項は明記されていないが、本書には「三島毅遠叔著／加藤信義卿輯録」とあり、輯録者が復齋と明確になった。

〔詩経講義〕 〔三島中洲述〕 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 仮綴五冊 復齋 504

明治二七年から二八年（一八九四〜九五）にかかる講義筆

記。時期により筆蹟、用箋が異なる。

〔詩経講義〕 闕名 加藤復斎写本 仮綴一冊 復斎505

〔詩経講義〕 〔三島中洲述〕 加藤復斎録 加藤復斎自筆本 三

葉 復斎506

詩経講義 〔三島中洲述〕 加藤復斎録 加藤復斎自筆本 仮綴

一冊 復斎507

外題(表紙打付書)「詩経講義一」又「首卷至邶風雄雉」、

首)「詩経講義 甲午十一月六日」(甲午〓明治三二年)

明治三二年(一八九四)の講義筆記。

春秋

春秋左氏伝序(講義筆記書入) 〔三島中洲述〕 加藤復斎録

加藤復斎自筆本 仮綴一冊 復斎508

眉欄行間に朱筆にて「一大段」「一小段」等と中洲の段解を示す講義の書入あり。「専修学校用紙」用箋使用。

四書類

中庸

中庸講義筆記 〔三島中洲述〕 加藤復斎録 加藤復斎自筆本

仮綴一冊 復斎509

卷首「中庸講義筆記」眉上「癸巳十月廿九日／中洲先生講義」。

明治二六年(一八九三)の講義筆記。

中庸〔講義〕 〔三島中洲述〕 加藤復斎録 加藤復斎自筆本

仮綴一冊 復斎510

段解を示す書入あり。

論語

〔論語講義〕 加藤復斎録 加藤復斎自筆本 仮綴六冊 復斎511

明治二七年(一八九四)講義他の筆記。

〔論語概説〕 加藤復斎録 加藤復斎自筆本 仮綴一冊 復斎512

異なる時期に三種の用箋に書写された「論語総論」、「作者」「伝来」「名義」「古論」「魯論」「斉論」、「中洲先生口述大意筆記」の合綴本。

論語講義 加藤復斎録 加藤復斎自筆本 仮綴一冊 復斎513

論語〔講義〕 加藤復斎録 加藤復斎自筆本 仮綴一冊 復斎

514

〔論語講義〕 加藤復斎録 加藤復斎自筆本 仮綴一冊 復斎515

論語講義 島田篁村・三島中洲述 加藤復斎録 加藤復斎自筆

本 仮綴一冊 復斎516

外題（表紙打付書）「論語講義／（学而／為政） 篁村翁／中洲翁」又「為春堂藏」。

論語〔講義〕（三島中洲述） 加藤復齋録 加藤復齋自筆本

仮綴一冊 復齋 517

講義筆記清書本。

〔論語講義〕 久保檜谷講述 加藤復齋録 加藤復齋自筆本

綴一冊 復齋 518

久保檜谷による、明治二八年から二九年（一八九五）頃、六）頃の講義筆記。異なる時期の書写、用箋の合綴本。

論語札記・論語講義 加藤復齋写本 仮綴一冊 復齋 519

論語彙纂拔萃 藤沢南岳編 加藤復齋写本 仮綴一冊 復齋 520

論語講義・雑抄 細田東郷（劍堂）講義 加藤復齋録 加藤復齋写本 仮綴一冊 復齋 521

表紙に「戊戌十月廿講洪範／論語開講」（戊戌＝明治三一年）とあり。鉛筆書。

孟子

孟子考文附録（猪飼敬所） 加藤復齋写本 仮綴一冊 復齋 522

外題（表紙打付書）「孟子考文附録 五葉十三條」又「為春堂藏本」、書中に「両書考文論語考文附録書于本文欄外／

明治三十三年□（墨消）十月十二日志于為春堂」とあり。

「行余文社」用箋使用。

〔孟子講義〕（零葉） 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 一葉 復齋 523

綴一冊 復齋 524

〔孟子講義〕 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 二葉 復齋 524

〔孟子講義〕（零葉） 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 一葉 復齋 525

綴一冊 復齋 526

第二行「孟子 乙未十月十二日」（乙未＝明治二八年）。

明治二八年（一八九五）の講義筆記零葉。

孟子〔講義〕（三島中洲述） 加藤復齋録 加藤復齋自筆本

仮綴一冊 復齋 526

外題（表紙打付書）「孟子公孫丑上」又「戊戌六月十七日夜草了／二松覺柳北塾 加藤信」（戊戌＝明治三二年）。本文は『孟子私録』と重なり、匡廓外の朱墨書入は中洲の講説ほか中井履軒、佐藤一斎の引用が頻出する。講義筆記清書本。

二松學舎）用箋使用。

〔孟子諸注〕 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 仮綴一冊 復齋 527

〔孟子講義〕（三島中洲述） 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 仮綴一冊 復齋 528

綴一冊 復齋 529

講義筆記清書本。

〔孟子講義〕（三島中洲述） 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 仮綴一冊 復齋 529

綴一冊 復齋 529

講義筆記清書本。

(二) 史部

〔史記講義〕 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 八葉 復齋 530

史記〔講義〕 (三島中洲述) 加藤復齋録 加藤復齋自筆本

仮綴一冊 復齋 531

〔史記論贊〕 三島中洲編 加藤復齋写本 仮綴四冊 復齋 532

『史記』の論贊部分を輯めたもの。眉欄、行間の書入は中洲の講義時の筆録で、「主意：」としてははじめに主意を掲げ、また「一段：」「二段：」と段解を示す書入がある。

〔史記講義〕 (三島中洲述) 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 仮綴一冊 復齋 533

講義筆記清書本。

〔史記講義〕 (三島中洲述) 加藤復齋録 加藤復齋写本 仮綴一冊 復齋 534

書中「史記論贊 明治二十五年三月念五初講」とあり。

明治二五年(一八九二)の講義筆記。

史記論贊鈔 三島中洲編 加藤復齋写本 仮綴一冊 復齋 535

眉上が広くとられ、講義筆記が書入れられる。

史記論贊〔講義〕 三島中洲編述 加藤復齋写本 仮綴一冊 復齋 536

講義筆記清書本。

史記論贊評 闕名 加藤復齋写本 仮綴一冊 復齋 537

(三) 子部

儒家類

近思録〔講義〕 三島中洲述 加藤復齋録 加藤復齋自筆本

仮綴一冊 復齋 538

首「近思録(廿六年/十月廿一日)」。

明治二六年(一八九三)一〇月の講義筆記の清書本。

〔伝習録講義〕 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 仮綴一冊 復齋 539

首「伝習録叙講」又「丙申三月念三日」、他日付「丙申三月念五」(丙申〓明治二九年)

明治二九年(一八九六)三月の講義筆記。

法家類

〔韓非子講義〕 三島中洲述 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 四葉 復齋 540

葉

「乙未八月二十二日」(乙未〓明治二八年)「卅日」「九月五日」とあり。

明治二八年(一八九五)八月二三日、三〇日、九月五日の

講義筆記。

韓非子〔講義〕 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 仮綴一冊 復齋 542

兵家類

孫子〔始計〕前半部、「行軍」後半以降闕） 加藤復齋写本

一冊 復齋 541 「始計」前半部、「行軍」後半以降闕。諸氏文稿雜抄裏紙使用。

孫子〔講義〕 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 仮綴一冊 復齋 543

外題（表紙打付書）「孫子」又「丁酉自七月十九日至九月」（丁酉＝明治三〇年）「箱根宮城野村静観書院夏季講習所内／復齋学人 信」とあり。

明治三〇年（一八九七）七月から九月にかけて箱根の静観書院夏季講習所において行われた講義の筆記。同期間の講義筆記には別に『莊子』（後出「復齋 548」参照）がある。二松學舎では七月中旬より八月下旬までの夏季休業中、毎年夏季講習会が開かれていた。

孫子十三篇要領 闕名 加藤復齋写本 仮綴一冊 復齋 544

印記「藤／名／信一号／復／齋」（上白文下朱文長方双印）。

道家類

老子講義 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 一冊 復齋 545

印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

莊子釈義 闕名 大正六年（一九一七）加藤復齋写本 仮綴五冊 復齋 546

莊子〔講義〕 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 仮綴一冊 復齋 547

卷首「莊子」下部に「甲子一月廿六日」（甲子＝明治二九年）とあり。

明治二九年（一八九六）の講義筆記。

莊子内篇〔講義〕 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 仮綴一冊 復齋 548

外題（表紙打付書）「莊子内篇」又「明治丁酉夏自七月廿日至九月」（丁酉＝三〇年）「於神奈川県足柄下郡宮城野／村静観書院夏季講習／会所 復齋学人 藤信」とあり。

明治三〇年（一八九七）七月から九月にかけて箱根の静観書院夏季講習所において行われた講義筆記。前出『孫子〔講義〕』（復齋 543）参照。

莊子〔講義〕 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 仮綴一冊 復齋 549

眉上が広くとられ、朱墨藍筆にて講義筆記が書入れられる。

(四) 集部

総集類

唐宋八家文

〔唐宋八家文講義〕二種 三島中洲述 加藤復斎録唐宋八家文講義 藤森弘庵批評唐宋八家文読本 加藤復斎自筆本 仮綴一冊 復斎550

中洲の明治二六年(一八九三)の講義の筆記録と藤森弘庵批評の『唐宋八家読本』の合綴本。

八家文〔講義〕 細田東郷(劍堂)講義 加藤復斎録 加藤復斎自筆本 仮綴一冊 復斎551

書中「丁酉九月十四日」(丁酉≡明治三〇年)とあり。

八大家文講義 加藤復斎録 加藤復斎自筆本 仮綴三冊 復斎

552

文章軌範

文章軌範〔講義〕 四屋穂峰述 加藤復斎録 加藤復斎自筆本

仮綴一冊 復斎553

明治二六年(一八九三)、斯文齋で行われた講義の筆記。

〔文章軌範講義〕 加藤復斎録 加藤復斎自筆本 五葉 復斎554

〔文章軌範〕 文法講義 加藤復斎録 加藤復斎自筆本 仮綴一冊 復斎555

表紙「文範 黄山生(朱文円印)「加藤」／／文法講義」。

〔文章軌範講義〕 (三島中洲述) 加藤復斎録 加藤復斎自筆本 仮綴一冊 復斎556

眉欄行間に書入あり、川田甕江説を多く引く。

文章軌範〔講義〕 加藤復斎録 加藤復斎自筆本 仮綴一冊 復斎557

書面を三層に区切り、四屋穂峰の講義筆記ほか、川田甕江、森田節斎などの説を記し、整理したもの。

邦人撰述漢文抄

講学余抄 文 加藤復斎写本 一冊 復斎558

外題(題簽)「講学余抄 文」。

序跋等諸家文抄録。

講学余抄 文話 加藤復斎写本 一冊 復斎559

外題(題簽)「講学余抄 文話」。印記「加藤信／太郎図／書之印」。

序跋等諸家文抄録。

講学余抄 加藤復斎録 加藤復斎自筆本 一冊 復斎560

外題（題簽）「講学余抄」。印記「加藤信／太郎図／書之印」。

序跋等日本諸家撰述漢文についての講義筆記。眉欄に講義筆記書入。

論学余抄 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 一冊 復齋 561

外題（題簽）「論学余抄 文」。印記「加藤信／太郎図／書之印」。

序跋等日本諸家撰述漢文抄録。

講学随筆 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 一冊 復齋 562

外題（表紙打付書）「講学随筆」、また表紙に「荀子八家／立志能迁即大才／用心不古非時傑／為春堂主人」、裏表紙に「明治丁酉夏六月上浣／独行不耻影／独寝不耻衾／：」（丁酉三〇年）と書入あり。印記「咬得／菜根百／事可」（朱文正方印）、「寧静／致遠」（白文正方印）、「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

明治三〇年（一八九七）講義筆記。序跋等日本諸家撰述漢文について、朱筆にて講義筆記、批語等書入。

講学余抄 文 加藤復齋録 加藤復齋自筆本 一冊 復齋 563

外題（表紙打付書）「講学余抄 文」。「二松學舎」用箋使用。眉欄、行間に朱筆にて書入、段解あり。書中「戊戌六月十九日写于二松覺柳北塾／門人藤信春」（戊戌〓明治三一年）「戊戌六月念一日写于二松覺柳北塾 信春」六月念三日

写于柳北塾 藤信春」「六月念三日写于二松覺柳北塾／藤信」「戊戌九月三十日写於二松覺本塾北窓下／加藤信」「嘉平月初七夜写于松覺西新塾北窓」「以上三文戊戌十二月初八下午写」「己亥三月初七下午写」（己亥〓明治三二年）と日付あり。書末「明治三十二年六月／東宮侍講正五位勳四等大学博士三島毅撰」とあり。

明治三一至三二年（一八九六〓九七）講義筆記。日本諸家撰述漢文について、眉欄、行間に朱筆にて講義筆記、段解書入。

講学余抄 文 加藤復齋自筆本 仮綴一冊 復齋 564

原表紙打付書「講学余抄 文」。書中「三十八年七月卅日写」「庚子三月初七日于下二番街寓写 藤春信」（庚子〓明治三三年）等日付あり。

明治三三年（一八九八）、三八年（一九〇三）写。川田甕江、重野成斎、中村敬宇、塩谷時敏等各種序跋抄。

消閑雜抄 加藤復齋写本 二冊 復齋 565

外題（表紙打付書）「消閑雜抄 文」。印記「加藤信／太郎図／書之印」。

篠崎小竹、西毅一等各种序跋雜抄。

〔雜抄〕（川北梅山・南摩羽峯等評） 加藤復齋写本 仮綴一冊 復齋 566

日本諸家撰述漢文に対して眉欄行間、文末に川北梅山、南

摩羽峯による朱墨訂正書入。「二松學舎」用箋使用。

〔雜抄〕 加藤復齋写本 仮綴一冊 復齋 567

日本諸家撰述諸家漢文に対して、文末に批語訂正。

〔雜抄〕 加藤復齋写本 仮綴一冊 復齋 568

「己亥九月初五写于西新塾北窓下／春信記」(己亥＝明治三年)とあり。「行余文社」用箋使用。

日本諸家撰述漢文についての講義筆記か。明治三二年(一八九八)写。

〔雜抄〕 加藤復齋写本 仮綴一冊 復齋 569

書中「大正三年十月念六」「大正三年十月念二就原碑写」

「大正三年十月念七」「三年十月念六夜」と日付あり。

日本諸家撰述漢文抄録。大正三年(一九一四)写。

〔雜抄〕 加藤復齋写本 仮綴一冊 復齋 570

印記「加藤信／太郎図／書之印」。

日本諸家撰述漢文抄録。

〔雜抄〕 加藤復齋写本 仮綴一冊 復齋 571

日本諸家撰述漢文抄録。

(五) 文稿・他

松巒詩文題 加藤復齋写本 一冊 復齋 572

外題(表紙打付書)「松巒詩文題」、扉「明治十四年一月許

衡／學者以治生為先／詩文課題一／二松學舎」、首「明治十四年辛巳一月十五日」(自明治一四年一月一五日至一五年九月五日)、末「明治甲午夏六月念九／陸前浦谷加藤氏」(甲午＝二七年)、次扉「詩文題二」、首「九月一五日宿題」(自明治一五年)九月一五日至一七年五月二五日)、末「明治甲午夏六月卅日／陸前浦谷加藤氏」、次扉「自明治廿年二月／詩文題四」、首「二月十五日」(明治二四年一〇月一〇日)、末「甲午七月四日／陸前浦谷加藤氏」、次扉「自明治二十四年十月／詩文題 二松學舎」、首「十月廿五日」(自明治二四年一〇月二五日至明治三〇年二月一〇日)、印記「加藤信／太郎図／書之印」。

二松學舎における明治一四年から三〇年にかかる作詩文講義課題を筆記したもの。

〔加藤復齋文稿〕 加藤復齋自筆本 仮綴一冊 復齋 573

書中各文末に「加藤信太郎 拜稿／伏乞斧正」「加藤信九拜／伏乞通正」とあり、朱藍筆にて諸家から訂正。諸家署名に「補天生盲評」「辱知墀妄言」「五洲 那智典妄批」「清溪学人并識」「荒溪富田健妄批」「英峯岩下直妄言」「寸鉄殺人 于時清田亀妄評」「山田勝治」等あり。

〔加藤復齋文稿〕 加藤復齋自筆本 仮綴二冊 復齋 574

欄外「二月／文会第一」「文会第二会」とあり。復齋文稿に対して諸家により朱墨訂正。「二松學舎」用箋使用。

〔雑録〕 写本 一冊 復齋 575

〔徳島県立富岡中学校作文用紙〕使用。

三、その他邦人著作類

(一) 漢詩文・漢学

(1) 漢詩文

① 総集類

増訂再校明治詩学精選五巻 橋本小六著 安田斐・大館熙校正

明治一六年(一八八三) 大阪野村秀太郎刊本 五冊 復齋 401

印記「東海林／善□郎」(朱文龍開印)、
「東海林」(朱文印)。

今世名家文鈔八巻(巻七・八闕) (釈)清狂月性編 嘉永二年

(二八四九) 序明治期刊本 三冊 復齋 402

眉欄に藍筆書入あり。印記「咬得／菜根百／事可」(朱文
正方印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

近世名家文粹三巻二編三巻 東条永胤編 初編明治一〇年(一
八七七) 二編明治一二年(一八七九) 東京万青堂刊本 六冊

復齋 403

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)、「加藤」
(朱文印)。

近世六大家文六巻(巻五・六闕) 川田甕江先生批点 斎藤弘

編次 明治一一年(一八七八) 巖城書屋刊本 二冊 復齋 404

印記「咬得／菜根百／事可」(朱文正方印)、「加藤信／太
郎図／書之印」(朱文正方印)。

文章金鍼二巻(存巻一) 杉村武敏選録 木原元礼校閲 明治

一一年(一八七八) 東京杉村武敏刊本 一冊 復齋 405

書末に「戊戌十二月初五閱了 藤春信」(戊戌〓明治三十一
年)と書入あり。印記「藤／名／信一／号／復／齋」(上白文

下朱文長方双印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

詩文稿 闕名 加藤復齋写本 一冊 復齋 406

扉「詩文稿」又「近世人 第貳」。朱筆書入あり。印記
「□峯／堂主」(朱文正方印)、「藤／名／信一／号／復／齋」
(上白文下朱文長方双印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文

正方印)。

諸家の詩文を集めたもの。

明治八大家文三巻(巻上闕) 松村操纂評批点 明治一四年

(二八八二) 東京望月誠活字印本 二冊 復齋 407

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)、「片岡」
(朱文印)。

盍簪社古文偶評二卷(巻下闕) 川田剛毅卿評点 文久二年

(二八六二) 刊本 一冊 復齋408

裏見返しに「都合二十五文／明治廿四夏六月下旬 加藤氏

(朱文円印「加藤」)とあり。印記「永嶋／文庫」(朱文正方

印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)、「加藤」(朱

文円印)。

昭代鼓吹第二輯 岩溪晋士讓評選 明治三年(一八九八)年

東京五本直次郎活字印本 一冊 復齋409

復齋により表紙に朱筆にて「中洲先生近稿」、書末に墨筆

にて「庚子二月中九日 加藤氏蔵」(庚子＝明治三三年)と

あり、印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

②別集類

考槃堂稿 (井上金峨) 加藤復齋写本 一冊 復齋410

後表紙題簽「考槃堂稿 完」(復齋書)、印記「咬得／菜根

百／事可」(朱文正方印)、「藤／名／信一／号／復／齋」(上白

文下朱文長方双印)。

愛日樓文三卷(巻一闕) 愛日樓詩一卷附日光山行記 佐藤一齋

刊本 三冊 復齋411

印記「牛麓舎」(朱文長方印)。

牛麓舎は山田方谷私塾。

愛日樓文三卷(巻一闕) 愛日樓詩一卷附日光山行記 佐藤一齋

明治期刊本 三冊 復齋412

印記「忠孝吾家之宝／関場氏所蔵／経史吾家之田」(白文

朱文正方印、関場忠武蔵書印)、「加藤信／太郎図／書之印」

(朱文正方印)。

山陽文稿二卷 頼久太郎(山陽)著 明治二年(一八七八)

和田茂十郎刊本 二冊 復齋413

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

山陽遺稿七卷詩一卷 頼襄子成(山陽)著 明治期銅活字印本

(序木版) 四冊 復齋414

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)、「横田／

源太」(朱文円印)。

良斎文略続三卷詩略一卷 安積信(良斎)著 嘉永六年(一八

五三) 江戸須原屋源助等刊本 信夫恕軒手沢 四冊 復齋415

信夫恕軒により朱引朱点あり。印記「奇文欣／賞書／樓之

印」(朱文正方印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方

印)。

「奇文欣／賞書／樓之印」は信夫恕軒蔵書印。信夫恕軒旧

蔵書。

温山文二卷詩一卷 川北重熹儀卿著 嘉永三年(一八五〇)

刊本(春風楼蔵板) 三冊 復齋416

印記「伊澤／酌源堂／図書記」(朱文正方印)、「加藤信／

太郎図／書之印」(朱文正方印)。

伊澤蘭軒旧蔵書。

静軒百詩 (寺門) 静軒居士著 村田和子節・武衛恒土産同校

刊本 未装一冊 復齋417

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。未製本、後半部分欠。

息軒遺稿四卷 息軒安井衡著 明治二年(一八七八) 安井千

菊刊本 四冊 復齋418

印記「大笠氏／臧書章」(朱文長方印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

磐溪文鈔二卷 大槻清崇土広(磐溪)著 嘉永二年(一八四

九) 序刊本 三冊 復齋419

牧山楼文鈔二卷(卷下闕) 佐藤楚材晋用著 明治期刊本 一冊 復齋420

印記「藤／名／信一／号／復／齋」(上白文下朱文長方双印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

勿堂若山先生文稿 若山勿堂 加藤復齋写本 仮綴一冊 復齋421

裏表紙に「大正元年十月十日于静溪書院 復齋学人」と書入あり。

寤眠録 中村三郎(栗園)著 安政六年(一八五九) 中清堂刊本 一冊 復齋422

印記「忠孝吾家之宝／関場氏所蔵／経史吾家之田」(白文

朱文正方印、関場忠武蔵書印)、「畊雨珍藏」(朱文琵琶型印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

栗園餘藁二卷(存卷上)〔中村栗園著〕男(中村)彝編輯

文久元年(一八六一) 中清堂刊本 一冊 復齋423

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

月洲遺稿三卷 巖垣龜六著 山田親良・杉浦正臣・宮本氏寿校

明治二年(一八七八) 京都巖垣雄次郎刊本 三冊 復齋426

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

春堂遺稿・竹香閣小詩(梅外詩鈔二編附録) 長黄君裳著 麻

生春畦校 春堂遺稿 明治二年(一八七八) 序刊本 一冊

復齋427

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)、「信／印」(白文正方印)。

竹窓夏課〔森田節齋〕写本 一冊 復齋424

本文別筆朱筆書入あり。書中「明治庚子二月廿三日夜字時辰儀報十二時」(庚子〓明治三三年)とあり。印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

節齋が麻疹を患い夭折した一女のために七十余日竹窓下にこもり、そこで物した長短十篇の文を録したもの。

竹窓夏課〔森田節齋〕写本 一冊 復齋425

印記「藤／名／信一／号／復／齋」(上白文下朱文長方双印)。

- 節齋遺稿二卷 森田益謙蔵(節齋) 三島中洲・川田甕江批
 明治期写本明治一五年(一八八二) 刊本 二冊 復齋428⁴
 眉欄に朱藍書入あり、朱筆は中洲による講義を反映したものと見られ、藍筆は甕江批語。印記「加藤／信」(白文正方印)、「字／近義」(朱文正方印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。
- 詢莨齋文鈔二卷(卷一闕) 藤堂高猷著 塩田重絃校刊 明治一三年(一八八〇) 東京塩田重絃刊本 一冊 復齋429
 書末に「丁酉十一月九日夜購／同十一日読了 信」(丁酉
 〓明治三〇年)と書入あり。印記「藤／名／信一号／復齋」(上白文下朱文長方双印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。
- 続竹堂文鈔三卷(存卷中) 齋藤馨子徳著 国分平子達・白石時康惟文同校 (明治一六年(一八八三) 宮城伊勢安右衛門) 刊本 一冊 復齋430
 印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。
- 秋水存稿二卷 筒井載元卿(秋水) 著 明治一四年(一八八二) 愛知杉浦善七刊本 二冊 復齋431
 印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。
- 六石亭詩文鈔前編四卷(存卷三、四) 片山達直造著 明治一六年(一八八三) 東京水谷弓夫刊本 一冊 復齋432
 印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。
- 聲牙遺稿十六卷(卷一、四至七闕) 土井聲牙 明治一十九年(一八八六) 伊勢土井文次活字印本 五冊 復齋433
 印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。
- 白華文稿甲編三卷 菅野潔聖與存録 明治二年(一八六九) 兵庫明親館刊本 二冊 復齋434
 印記「藤／名／信一号／復齋」(上白文下朱文長方双印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。
- 壘篋小集四卷 青山延寿輯 明治三年(一八七〇) 東京和泉屋金石衛門等刊本 四冊 復齋435
 印記「七井氏／蔵書印」(朱文長方印)、「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。
- 鴻溪遺稿二卷 進漸著 信原機編 近藤簡校字 明治三九年(一九〇六) 岡山莊直温活字印本 一冊 復齋436
 朗廬文鈔 阪谷素子絢著(朗廬) 著 明治一八年(一八八五) 阪谷氏刊本 二冊 復齋437
 印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。
- 朗廬全集 阪谷朗廬 明治二六年(一八九三) 東京阪谷芳郎排印本 一冊 復齋438
 印記「咬得／菜根百／事可」(朱文正方印)、「加藤／信」(白文正方印)、「字／近義」(朱文正方印)。
- 房山樓集不分卷 鱸元邦彦之著 明治一八年(一八八五) 鱸松塘刊本 二冊 復齋439

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

梅山遺稿文五卷詩四卷(文卷一、二闕) 川北長頼有孿著 明

治四二年(一九〇九)序刊本 三冊 復齋440

朱刷にて圈点、齋藤拙堂、三島中洲、南摩羽峰、後藤松陰、篠崎小竹等の評語等を付す。

甕江文鈔不分卷 川田甕江 加藤復齋写本 三冊 復齋441⁵

外題(題簽)「甕江翁文」。印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

第一冊に序二二篇、第二冊に記九篇・跋等九篇、第三冊に墓碑等九篇を収め、また眉欄、文末に中村敬宇、依田学海、元田南豊、西尾鹿峰、隄静斎、成島柳北、三島中洲、日下勺水、黄遵憲、重野成斎、森春濤らの評も収録されている。

中洲文稿第三集三卷 三島毅遠叔著 細田謙子敬校 明治四四

年(一九一一)東京三島毅活字印本(二松學舎藏版) 三冊 復齋442

奎堂文稿三卷 松本衡士権著 丹波賢士覚校 明治四年(一八

七一)名古屋永楽屋正兵衛等刊本 三冊 復齋443

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

観旭軒文稿三卷(卷下闕) 木村温士良(容斎)著 慶応元年

(二八六五)刊本(格致塾藏) 二冊 復齋444

印記「考古／居主」(朱文正方印)、「藤／名／信一／号／復齋」(上白文下朱文長方双印)、「加藤信／太郎図／書之

印」(朱文正方印)。

観旭軒遺稿二卷 木村温士良著 田沼健編次 明治二四年(一

八九二)横浜大橋佐平刊本 二冊 復齋445

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

恕軒文鈔三編三卷補遺 天倪信夫祭文則(恕軒)著 明治二二

年(一八八九)東京信夫祭刊本(奇文欣賞書樓藏版) 三冊 復齋446

書末に「戊戌五月十六日」(戊戌〓明治三二年)と書入あり。印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

竹雨山房文鈔三卷 五十川淵士深・高階英吉等校(木崎愛吉

編輯) 明治三〇年(一八九七)大阪吉岡平助刊本 三冊 復齋447

書末に「戊戌九月念九麴坊三番街購之／同十月初一閱了」

(戊戌〓明治三一年)と書入あり。印記「藤／名／信一／号／復齋」(上白文下朱文長方双印)、「加藤信／太郎図／書之

印」(朱文正方印)

篁村遺稿三卷 島田重礼(篁村) 大正七年(一九一八)東京

島田鈞一活字印本(双桂精舎藏) 三冊 復齋448

飯山文存 松林漸伯鴻著 写本 一冊 復齋449

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

飯山文存二卷(卷一闕) 松林漸伯鴻著(松林)義規編 明治

一一年(一八七八)松林義規刊本 一冊 復齋450

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

江月齋遺集 久坂玄瑞著 写本 一冊 復齋451

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

従心寿言 石崎謙編 明治三四年(一九〇一) 東京二松學舎活

字印本 一冊 復齋452

晚晴樓文鈔二編三卷(存卷上) 土屋弘伯毅(鳳洲) 明治期刊

本 一冊 復齋453

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

楽瓢庵詩文鈔二卷(卷下闕) 午橋岡本斯文著 男(岡本)

昇・由同編 明治(四一年(一九〇八)) 友徳堂活字印本

一冊 復齋454

東山頌寿録 頼潔・江馬肇編輯 明治二年(二八八八) 頼龍

三(潔) 活字印本 一冊 復齋455

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

(2) 漢学

靖獻遺言講義二卷 (浅見綱斎) 慶応三年(一八六七) 京都風

月堂莊左衛門等刊本 二冊 復齋456

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

侯鯖一鱒五卷(存卷二、五) (亀田) 鵬齋先生原選 孫(亀

田) 保補輯 (天保二三年(一八四二)) 京都勝村治右衛門大

坂河内屋喜兵衛江戸山城屋佐兵衛等刊本 二冊 復齋457

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

二家对策二卷 (頼) 山陽先生・村瀬褰(著) 村瀬颯君尊校

明治三〇年(一八九七) 森直吉写本 一冊 復齋458

書写識語「明治丁酉三十年十月十一日夜写了二松学舎／孤

燈下 森直吉謹写」、印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文

正方印)。

格致贍議 吉村晋(秋陽) 稟 加藤復齋写本 一冊 復齋459

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

叉子 東敬治 明治三〇年(一八九七) 大阪米谷判蔵刊本 一

冊 復齋460

奥付部に「辛丑十一月十五日夜四谷夜市購即閱了」(辛丑

|| 明治三四年)と書入あり。印記「加藤信／太郎図／書之

印」(朱文正方印)。

朱王両学異同・大学説 闕名 加藤復齋写本 一冊 復齋461

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

性論氣質本然辨 闕名 江戸期写本 一冊 復齋462

見返しに「性論明備録ト云モアリ(傍書「伊藤氏」)此書

二同シ」とあり、書末に書写識語「右氣質本然性之辯書、宝

永三年丙戌孟秋十二日、客軒子本齋先生出席右設問書此門人

之施宗来世人終身玩索可用之者也。然借晴雪写。藤友久」あ

り。

○ 自警蒙求 藤沢恒(南岳)著 慶応元年(一八六五) 大坂河内

屋茂兵衛等刊本(藤沢氏蔵版) 二冊 復斎463

表紙次白葉書入「初学就此書読之／藤氏志庶以可見」。印

記「小山田／蔵書」(朱文正方印)、「加藤信／太郎図／書之

印」(朱文正方印)、「加藤」(朱文円印)。

○ 中国人の伝記を蒙求の体裁で記したものだ。

南遊志 斎藤拙堂 明治一五年(二八八二) 南紀佐藤兩溪朱墨

活字印本 一冊 復斎464

印記「藤／名／信一／号／復／斎」(上白文下朱文長方双

印)「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

梅溪游記 [斎藤拙堂著 頼山陽評] 加藤復斎写本 一冊 復

斎466

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

亦奇録三卷 鉄心小原寛栗卿 慶応三年(一八六七) 刊本 三

冊 復斎467

印記「桵邨氏／図書記」(朱文正方印)、「加藤信／太郎図

／書之印」(朱文正方印)。

隨鑾紀程八卷(卷四、七闕) 川田剛(甕江)撰 明治一七年

(二八八四) 刊本(太政官蔵板) 六冊 復斎468

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

瓊浦筆談(中洲先生筆談) 三島中洲・林雲達筆談 明治期加

藤復斎写本 一冊 復斎465

首「三島先生筆談／壬戌十一月廿二日与清人林雲／達筆談

于長崎英館」(文久二年)、印記「加藤信／太郎図／書之印」

(朱文正方印)。

文久二年(一八六二)、一月二二日と二四日の両日に、

長崎にて、当時大浦の英館に寄寓していた林雲達と中洲との

筆談録。

(二) 史書

(1) 日本史

① 通史

大日本史二百四十三卷(本紀・列伝)(闕卷一百四十三至一百

六十五、一百八十五至一百九十四) 源(徳川)光圀修 徳

川綱條校 徳川治保重校 明治三三年(一九〇〇) 東京吉川

半七阪上半七銅活字印本 二二冊 復斎601

増補点註国史略五卷(卷二・五闕) 源(巖垣)松苗編次 巖

垣杫苗点註 土居清喜校 明治一一年(一八七八) 刊本 三

冊 復斎602

一冊 復齋 616

書末に明治一五年刊本奥付記載事項書写あり、また書写識語「于時明治十又八歳旃蒙作噩三月／於本県玉浦宇都宮龍山先生私塾写之焉／玄一郎藏書」とあり。

日本政記論文（日本政記論贊） 闕名 加藤復齋写本 一冊

復齋 620

外題（表紙打付書）「日本政記論文」、扉題簽添付「日本政記論文」、内題「日本政記／論文贊」、印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）

『日本外史論贊』と同様にして『日本政記』から山陽論贊部分を抜き出したもの。

内国史略後編 南摩綱紀闕 石村貞一編次 明治一〇年（一八

七七）本多文七写本 二冊 復齋 617

書写識語「紀元二千五百三十七年／明治十丁丑年／第二月写之／広窪／本多文七」又書末「明治十丁丑年／二月写之／広窪／本田文七持」。

② 雑史

憲王外記 東武野史訊洋子著 写本 一冊 復齋 618

書末に「戊戌嘉平月初七夜伴中野子順観三番街／夜市露店購之 日夜閱了／藤信」（戊戌＝明治三十一年）と書入あり。

印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

② 論

史論 安積信（良齋）著 写本 一冊 復齋 619

書末に安積良齋、森約之、森枳園各識語あり。良齋識語「天保辛丑閏正月偶得暇隙読史乘有所感輒／筆之不覚成編因托塾子浄写以藏焉／安積信識」（辛丑＝一二年）、約之識語「右良齋史論一卷文久二年壬戌／臨月季式日之宵比讎竟／核華道人森約之」、枳園識語「此書全文門人中塾元益所写／明治癸酉三月廿六日 六十七翁 枳園云」（癸酉＝六年）、眉欄森約之批語あり。印記「森／氏」（朱文正方印）、「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

③ 伝記

梅山川北先生伝 三島中洲撰 加藤復齋写本 一冊 復齋 621

『梅山遺稿』刊本の巻頭に収められたものの移写。末に「明治三十四年辛丑春／少友七十二齡三島毅撰」とあり。

川田甕江君ノ事略附川田甕江伝 依田百川撰 加藤復齋写本 一冊 復齋 625

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

(1) 韻文

④ 記録

古今和歌集打聴 [賀茂真淵] 江戸期刊本 七冊 復斎702

相沢実福上書 闕名 写本 一冊 復斎622

印記「釣鱸／蔵書」(白文正方印)、「陸前国遠田郡／浦谷村／加藤正人」(墨文長方印)。

[古今和歌集抄] 写本 一冊 復斎703

外題(表紙打付書)「相沢実福上書」内題(扉題)「上書」。印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

見返し書入「加藤氏」、印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

(2) 外国史

(2) 散文

漢史一斑四卷(卷二闕) 小永井一郎編 明治一二年(一八七

九) 東京水野慶治郎刊本 三冊 復斎623

① 物語—説話

(三) 言語

本朝故事因縁集五卷(存卷一、二) 闕名 写本 二冊 復斎704

和漢音釈書言字考節用集十卷(存卷三、六「服飾門」、七、十)

印記「加藤信／太郎図／書之印」(朱文正方印)。

駒谷散人楨郁(楨島昭武)輯 明和三年(一七六六) 大坂本

屋又兵衛等再刊本 四冊 復斎701

② 小説—読本・合巻

印記「斎藤氏／蔵書印」(朱文長方印)。

通俗両漢紀事十卷 称好軒徽庵 元禄一二年(一六九九) 序刊

(四) 文学

本 一〇冊 復斎705

通俗列国史二十四巻譜系一卷(存巻二十四) 闕名 宝永二年

(二七〇五) 大坂敦賀屋清助等刊本 一冊 復齋 706

裏見返し書入「大□順吉」他。

夢想兵衛胡蝶物語後編四卷(存卷三) 曲亭馬琴戲編 江戸期

刊本 一冊 復齋 707

○

弓削道鏡物語 油印本 一冊 復齋 708

③ 隨筆

徒然草講義 伊藤平章講述 深井鑑一郎編 明治二七年(一八

九四) 東京伊藤岩一郎排印本 二冊 復齋 709

印記「□月/□藏/書印(外周右上から左回り「宮城県加美

郡大字孫沢氏幡木村□美賀)」(朱文正方印)。

(五) 藝能

(1) 謡本

観世流改訂謡本(田村・紅葉狩・小袖曾我・竹生島・賀茂・葛

城・八島・鞍馬天狗・猩猩・三輪・羽衣・巴・籠・経政・嵐

山・橋弁慶・小督・土蜘蛛・吉野天人・鶴亀) 井上頼岡本

文監修 丸岡桂本文訂正 観世清之節附訂正 大正一四至一

五年(一九二五〜二六) 東京土佐源太郎(観世流改訂本刊行
会)排印本 二〇冊 復齋 710

宝生流謡本(高砂・田村) 宝生重英 昭和七年(一八三二)

東京江島伊兵衛排印本 二冊 復齋 711

(2) 浄瑠璃本

梅川忠兵衛傾城恋飛脚(新口村の段) 明治四三年(一九一〇)

大阪千葉徳松影印本 一冊 復齋 712

(六) 地理

日本地誌略卷之一 師範学校編輯 明治七年(一八七四) 文部

省刊本 一冊 復齋 713

大日本枝折れ国つくし三卷 西野古海著 明治期東京北畠茂兵

衛等刊本 三冊 復齋 714

印記「大槻/藏書」(朱文正方印)、「大槻/確印」(朱文正
方印)、「□□学」(朱文長方印)、また朱文正方印「第七大学

/区第十六中/学区七戸小/学校之印」あり、傍書して「払
下ノ事」とあり。

(七) 政治・故実

国本論二巻 源(松平)定信撰 写本 一冊 復齋715

書末書入「石名坂/主」。印記「鶴巢亭藏書」(朱文正方印)、「戌/□」(朱文円印)。

国体大意続編 石村貞一述 明治十四年(一八八二) 東京石村

貞一刊本 一冊 復齋716

印記「咬得/菜根百/事可」(朱文正方印)、「寧静/致遠」(白文正方印)、「加藤信/太郎図/書之印」(朱文正方印)。

○

尋常礼 闕名 江戸期写本 一冊 復齋717

(八) 教育

(1) 近世以前

① 教訓

実語教童子教 弘化二年(一八四五) 江戸和泉屋市兵衛刊本
一冊 復齋718

実語教童子教證 振鷺亭貞居著 明治期東京吉田屋文三郎等後

印本 一冊 復齋719

家内用心集二巻 享保一五年(一七三〇) 京都茨城多左衛門等

刊本 一冊 復齋720

表紙に「上太田村/高畑…」、裏表紙に「上太田村高畑/…」と書入あり。

父兄訓 林子平述 写本 一冊 復齋721

印記「加藤信/太郎図/書之印」(朱文正方印)、「陸前国

遠田郡/涌谷村/加藤正人」(墨文長方印)。

六諭衍義大意 室直清(鳩巢) 天保一五年(一八四四) 江戸

須原屋伊八等再刊本 一冊 復齋722

裏見返しに「奥州仙台/柴田郡/嘉永(甲/寅年)/六月

八日 蔵本屋輔/佐藤/柳蔵」と書入あり。

② 往来物

庭訓往来 宝永六年(一七〇九) 鱗形屋三左衛門刊本 一冊

復齋723

庭訓往来 江戸期鶴鱗堂鱗形屋刊本 一冊 復齋724

外題(表紙打付書)「庭訓往来始」。書末に「明治七甲戌年

/五月四日上太田村/広久保本田文七」、裏表紙に「広久

保」と書入あり。

庭訓往来諸抄大成 永井如瓶編 伊勢貞丈補 松井簡治校 明

治三六年(一九〇三) 東京明治書院排印本 一冊 復齋725

印記「河上/臧書」(朱文長方印)。

鳴鳳帖 耕山船田雅通 宝曆四年（一七五四）江戸鶴本平藏刊

本 一冊 復齋⁷²⁶

表紙に「耕山先生書」「御手本」「亥歲壬月吉日」「□屋元藏」、裏表紙に「手紙」「エトヤモトソウ」と書入あり。印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

(2) 近代

① 教訓

刪定家道訓二卷（卷上闕） 貝原益軒原著 川島楳坪校訂 明治一六年（一八八三）埼玉県刊本 一冊 復齋⁷²⁷

印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

刪定家道訓二卷 貝原益軒原著 川島楳坪校訂 明治一七年（一八八四）埼玉県刊本 二冊 復齋⁷²⁸

印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

日本立志編六卷（存四至六） 于河岸貫一撰述 明治一三年（一八八〇）大阪吉岡平助刊本 三冊 復齋⁷²⁹

日用文鑑二卷 小中村清矩・中村秋香同輯 明治一七年（一八八四）東京福田仙藏等刊本 二冊 復齋⁷³⁰

印記「加藤信／太郎図／書之印」（朱文正方印）。

② 教科書

日本読本（郡村用）五卷（存卷一、三、五） 新保磐次著 明治二二年（一八八九）東京原亮三郎刊本 三冊 復齋⁷³¹

小学読本（存卷一） 文部省編纂 明治期宮城県刊本 一冊 復齋⁷³²

表紙書入「明治十年／小学読本卷之一」。

挿画尋常小学読本字引二卷 林栄之助編纂 明治期刊本 一冊 復齋⁷³³

○

中等教科大正修身訓五卷 加藤弘之・中島徳藏合著 大正元年（一九一）大日本図書株式会社排印本 五冊 復齋⁷³⁴

選定中等漢文五卷 深井鑑一郎編輯 大正五年（一九一六）東京大場久吉排印本 五冊 復齋⁷³⁵

再訂中等漢文定本三卷 深井鑑一郎編纂 大正三年（一九一四）東京大場久吉排印本 七冊 復齋⁷³⁶

中等漢文讀本五卷（卷三闕） 宇野哲人編 大正三年（一九一四）東京大場久吉排印本 七冊 復齋⁷³⁷

○

高等讀本八卷（存卷二、七） 山県悌三郎 明治二七年（一八八四）東京小林義則排印本 二冊 復齋⁷³⁸

標註漢文教科書 深井鑑一郎・堀捨二郎編纂 明治二五年（一

八九二) 東京吉川半七排印本 二冊 復齋 739

見返しに「秋壑蔵書」、裏表紙に「秋壑生」と書入あり。

印記「奈満」(朱文円印)。

三訂服部漢文新読本三卷 服部宇之吉編 大正十一年(一九二

二) 東京富山房排印本 三冊 復齋 740

書末書入「和多奈部ひでまさ所蔵(朱文円印「渡邊」)」。

○

国語(巻十) 岩波編輯部編 昭和十二年(一九三七) 東京岩

波茂雄排印本 一冊 復齋 741

印記「尾崎忠夫」(藍印)。

○

校正家政小学二巻 小林義則編輯 明治一五年(一八八二) 東

京文学社刊本 二冊 復齋 742

新制女子修身要訓(巻四) 西晋一郎著 昭和一八年(一九四

三) 中等学校教科書株式会社排印本 一冊 復齋 743

新制新撰女子国語読本(巻八) 佐佐木信綱・武田祐吉編 昭

和一八年(一九四三) 中等学校教科書株式会社排印本 一冊

復齋 744

商事要項一(女子用) 実業教育振興中央会 昭和一八年(一

九四三) 実業教科書株式会社排印本 一冊 復齋 745

(九) 理学

(1) 曆本

循環曆五巻(存巻四、五) 小泉松卓撰 文政六年(一八二三)

江戸出雲寺万次郎等補刻本 二冊 復齋 746

(2) 数学

九数百好二巻(存巻下) (戸板保佑著) 江戸期写本 一冊

復齋 747

外題(題簽)「九数百好下ノ巻」、内題(扉題)「九数百好
下巻」、表紙書入「関ノ下ノ惣兵衛」。

改正洋算例題答式二巻 梅沢重起著 岡森龍躬校卷一 岡森龍

躬著卷二 明治九年(一八七六) 東京堀口惣五郎刊本 二冊

復齋 748

書末書入「加藤氏」。印記「加藤信ノ太郎印ノ書之印」(朱
文正方印)。

(3) 物理

改正増補物理階梯三巻 片山淳吉編纂 明治九年(一八七六)

東京水野慶治郎刊本 三冊 復齋 749

(一〇) 諸芸

(1) 花道

正風挿花衣香三篇 貞松齋一馬 天保一四年(一八四三) 序刊
本 一冊 復齋750

(2) 占卜・相法

大広益新撰八卦鈔諺解 闕名 享保三年(一七一八) 杉生五郎
左衛門等刊本 一冊 復齋751

陰陽方位便覧三卷(存卷一) 森重勝纂輯 森重固校 吉田徳
謙閱 文化一〇年(一八一三) 序刊本(斎政館蔵版) 一冊
復齋752

表紙次遊紙書入「加藤氏蔵書」。印記「陸前国遠田郡／
涌谷村／加藤正人」(墨文長方印)

人相千百年眼五卷 平沢白翁(勝) 口授 平沢満之等筆記 藤
田幸保等校正 明治二四年(一八九一) 愛知梶田勘助刊本
五冊 復齋753

印記「陸前国遠田郡／涌谷村／加藤正人」(墨文長方印)

注

- 1 平成二九年度二松學舎大学資料展示室企画展図録『三島中洲と近代―其五― | 二松學舎の漢学教育』(平成二九年一月) 所収「復齋603」
- 2 同注1 掲出書所収「復齋323」
- 3 同注1 掲出書所収「復齋325」
- 4 同注1 掲出書所収「復齋426」
- 5 同注1 掲出書所収「復齋438」
- 6 同注1 掲出書所収「復齋607」
- 7 同注1 掲出書所収「復齋615」